

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立池田高等学校

| | |
|------|----|
| 学校番号 | 20 |
|------|----|

I 自己評価

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 学校教育目標 | 校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 評価する領域・分野 | ◇進路指導 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | <ul style="list-style-type: none"> • 高校卒業後は、約85%の生徒が上級学校（大学・短大・専門学校）へ進学しており、「行ける学校」から「行きたい学校」へと生徒の意識に変化が生じ、一般（推薦）試験を受験する生徒が増えつつある。 • 保護者対象のアンケートでは、「生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」への評価が過去3年間で76.7%から90.0%へと大幅に増加した。「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」についての評価も同様に85.8%から90.9%へと増加している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇早期の段階における将来への明確な目標設定とそのための援助 ◇自己の能力や適性を鑑み、生徒の主体的な進路選択の促進 ◇進路目標の達成に向けた確かな学力の育成 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 重点目標を達成するための校内における組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> • 進路指導委員会 • 教育課程委員会 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 目標の達成に必要な具体的な取組 | 7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 専門講師による体験型を含む年複数回の進路ガイダンスの実施 (2) 各学年・教科の連携と協力の下、卒業までの組織的・計画的な進路指導体制の確立 (3) 各種模試や学習支援システムの効果的な運用と、外部専門講師の有機的な活用 | (1) ガイダンスに向けた事前・事後指導の後のアンケート調査及び進路希望調査結果。 (2) 教務主任を主に定期的な各学年・教科主任との打ち合わせ及び確認。 (3) 外部模試結果の伸張度や進路状況調査結果。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 取組状況・実践内容等 | 9 評価視点 | 10 評価 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> • 学年に応じた様々な進路ガイダンスや専門の外部講師による進路講演会の実施 • インターンシップへの積極的参加 • 進学、看護、就職希望者それぞれに対応した各種外部模試の実施 • 全学年対象の小論文指導と模試の実施 • 全学年対象の「スタディサプリ」の募集とそれに伴う「到達度テスト」の活用 • 公募制推薦希望者に対する全校指導体制の充実 • 平日、週末、長期補習の実施 • 就職希望者に向けた外部講師による複数回の就職講演会や面接指導の実施 | ① 生徒が自らの在り方や生き方について考えることができたか。 ② 将来に対する目的意識を持つことができたか。 ③ 生徒の実態にあった指導であったか。 ④ 適切な情報提供をすることができたか。 | <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">A</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</td> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">C</td> <td style="padding: 2px;">D</td> </tr> </table> | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| A | B | C | D | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | B | C | D | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | B | C | D | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | B | C | D | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|-------------|--|--|
| 11 成果・課題 | <p>○3年生向けガイダンスを午前中はバス4台に分かれて大学見学を行い、昼からは生徒が希望している60校の各種学校を体育館に集め、ブース毎に学校説明会を行うなど大幅な変更を行った。夏季懇談中にも40校を超える各種学校をお呼びし生徒・保護者両方に対応する説明会も行うことで進路選択の一助となった。</p> <p>○キャリア教育コーディネーターの配置により、就職希望者に専門的なアドバイスや指導が可能となった。更には4月当初から志望理由書講座を始めとした専門の外部講師による面接対策講座を複数回実施することでJR東海、J A、イビデン等の難関企業への内定者を増やした。</p> <p>○高大連携による大学・短大の専門の教授を招き、本校生徒の希望が多い「看護」「保育」「国際」「経済」の出前講義を実施した。高い大学レベルの講義を実際に体験することで将来のミスマッチを防ぎ、進路選択をする際の一助となった。</p> <p>○全学年対象に「スタディサブリ」の募集をし、140名（全校生徒の30%）登録者を得た。生徒個々の取り組み状況の一括管理に加えて、付随する学習到達度テスト結果の活用により、苦手分野の把握と対策が可能となった。更には1年生習熟クラス全員がこれを登録し、平常補習や週末課題で活用することで大幅な成績の向上が見られた。</p> <p>○公募制推薦入試を利用する生徒を対象に、全職員による小論文や面接指導を充実させることで本校初となる金沢大学を始めとする国公立大学や難関私大への合格者が増加した。</p> <p>▲「進路の手引き」には、キャリアプランとその実現に向けて様々な情報をまとめてあるが、効果的に活用されていないため、総合の時間を含めた活用法について工夫が必要である。</p> <p>▲土曜補習の参加者が少ないため、クラスの核となる集団作りのために、実施方法について工夫改善が必要である。</p> | <p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> |
|-------------|--|--|

| | |
|----|--|
| 12 | <p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校入学時より系統だったキャリアプランを立て、その実現に向けた効果的な援助・指導が大切となる。昨年度の反省を基に各種進路ガイダンスに変更を加えているが、その経験が「点」の状態となり、中々「線」として繋がっていかないのが現状である。「進路の手引き」を2次活用する機会を増やし、「進路ファイル」に綴じていくことで生徒独自の「キャリアノート」として幅広く活用させたい。 ・土曜補習に関しては、部活動に所属している生徒については登録時に引退後でも参加できるよう配慮したが、中々参加者を増やすことができなかった。来年度の土曜補習は「スタディサブリ」と「自主学習」の2コースを募集し、習熟クラスについては部活動や塾のない生徒については原則どちらかに参加させたい。 ・スタディサブリについては、使用状況や成果を鑑み、習熟クラスは2年次になっても全員登録をさせたい。新1年生についても今年度同様に週末課題や補習で年間を通して活用することで効果的な成績向上を目指したい。 ・今年度から使用が可能となったベネッセの「推薦用コンパス」の精度が高く、2年生の10月模試の結果から使用が可能となるため、3年生に向けた適切な助言指導ができるような体制を作りたい。 |
|----|--|

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年2月8日

| |
|--|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員による指導の充実により進学のレベルが上昇している事は評価できます。 ・きめこまかな進路指導の成果があらわれつつある。 ・高校3年間の間に「私は将来〇〇になりたい」と胸を張っていえるような進路指導が行われていることを素晴らしいと思い、聞いていて嬉しくなってくる。生徒さんたちが体験の中から、ぼんやりとした将来像を描き始めると、先生方が、それを否定することなく、生徒ひとりひとりに熱心な指導をしていただいているのがよくわかり、それによって明確な目標を見据えることができているように思う。その上、生徒・親・先生が大変良い連携で同じ方向を向き、生徒さんが安心して、前に進める状況になっていると思う。 ・進路については先生方のアドバイスが大ですから、保護者のアンケートによる評価が90%へと大幅に増加したの |
|--|

は素晴らしいと思います。